

物語の場面の把握や登場人物の心情の読み取り、説明文の要点や段落関係の理解など、入試に必要な読解力と表現力の基礎を体系的に学びます。まず「要点」を読んで読解の方法をインプットし、「確認問題」で理解を深めます。次に「練習問題」を解き、自分で考えて手を動かしてアウトプット。そして、「答えと考え方」を確認して、論理的な筋道を経て正解に至る流れをつかみます。一つ一つのステップを着実に踏みながら、頭で理解した読解や表現の方法を、自力できちんと使いこなせるようになります。

学習例：◎読解力と表現力の基礎を養う

●さまざまな文章の読解方法をつかむ

中学受験コースでは、3年生の段階から、物語だけでなく説明文や詩などのさまざまな文章を扱います。それぞれの文章に特徴的な読解のポイントを、基礎から詳しく学ぶことができます。

今月は、物語の登場人物の気持ちの読みとり方について学習します。

物語には、いろいろな出来事がえがかれています。それぞれの出来事が起こったことで、登場人物がどのような気持ちになっているのかを読みとることは、物語をきちんと理解するうえでとても大切です。物語には気持ちを読みとるための手がかりとなるところがありますので、そこに注目して読んでいきましょう。

次の四つの方ほうで、登場人物の気持ちを読みとることができます。

気持ちの読みとり方

(1) 気持ちが直せつえがかれているところから読みとる。

(2) 人の行動や表じようから読みとる。

(3) 人の言葉や口調から読みとる。

(4) じようけいから人の気持ちを読みとる。

* []の中を「授業ノート」に書いておきましょう。



●自分で考え、書きこむことで、「使える」レベルに

単に読むだけの学習では、理解したような気がしていても、実際に問題を解く力はなかなか身につみにくいもの。「授業ノート」では、読み取り方のポイントを書きこんだり、実際に文章を読んで例題を解いたりして、要点で学んだことを「知っている」から「使える」レベルにまで確実に上げることができます。

授業ノート

気持ちの読みとり方

(1) 気持ちが直せつえがかれているところから読みとる。

(2) 人の行動や表じようから読みとる。

(3) 人の言葉や口調から読みとる。

(4) じようけいから人の気持ちを読みとる。

①

山ねこからののがきが一郎にとどいた場面です。

字はまるでへたで、すみもがさがさしてゆびにつくくらいでした。けれども一郎は①うれしくてうれしくてたまりませんでした。②はがきをそつと学校のかばんにしまつて、うちじゅうとんだりはねたりしました。

宮沢賢治『どんぐりと山ねこ』

②

●記述力の基礎を養成

難関中学の入試で頻出の記述問題は、原則として毎回出題。標準レベルから発展レベルまで段階的に演習を積むことで、苦手になりがちな記述問題でも確実に得点するための基礎を養います。

問題

①、美乃里が夕ごはんをあまり食べなかったのはなぜですか。文中の言葉を用いて書きなさい。

問題

②、このときの美乃里の気持ちとしてあうものを次の中から一つえらび、記号を○でかこみなさい。

ア 背のことでなやんでいたことをなげなく思う気持ち。

イ お母さんになやみを理かいしてもらえず、いらだつ気持ち。

ウ わがままを言ったことをもうしわけなく感じる気持ち。

エ とつぜんお母さんがおこったので、びっくりする気持ち。

●根拠に基づいて選択肢を絞りこむ

「なんとなく」で選んでしまいがちな選択式の問題でも、正解を得るためにはしっかりとした根拠が必要です。問題文と選択肢を照らし合わせながら、明確な判断基準に基づいて解答を絞りこんでいく力をつけます。

●論理的な思考を養う解説

正解への道筋を丁寧に説明します。必ず問題文に立ち戻って確かめることで、解答の根拠を文中にもとめる意識づけができ、確かな読解力が身につきます。



答えと考え方

自分の背がこれいじょう大きくなつたらこまると思ったから。

考え方

①につづく会話を手がかりに考えましょう。

「どうしたの、美乃里。あなたのすきなチキンハンバーグなのに」

お母さんがふしぎそうな顔をする。

「だめだぞ。ちゃんと食べないと大きくなれないぞ」

お父さんはじぶんのむすめのなやみに、ちつとも気がついてない。(2〜7行目)

この会話から、夕ごはんは美乃里のすきなチキンハンバーグなのに、美乃里が食べないということがわかります。そして、美乃里がごはんを食べないのは、何かになやんでいるからだということが読みとれます。

「これいじょう大きくなつたらこまるよ、わたし。学校で高い背つて書かれてるんだから」(8〜9行目)

この言葉から、美乃里は学校で「高い背」と書かれてからかわれていて、背が高いことになやんでいるということがわかります。美乃里は、「自分の背がこれいじょう大きくなつたらこまる」と思っていたので、自分のすきなチキンハンバーグを食べるのをがまんしていたのです。「食べなければこれいじょう大きくならないですむと思ったから」という答えでも正かいです。

自分のすきなおかずなのに食べないなんて、美乃里は本当に背のことでなやんでいたんだね。

●解答を吟味する習慣づけ

すべての記述問題に「丸つけの仕方」をご用意。文末のまとめ方などの基本はもちろん、解答に必要な要素を分解して示し、自分の書いた答えを吟味する習慣づけを行います。3年生の段階から模範解答と自分の答えの違いを意識することが、4年生以降の記述力の伸びにつながります。

丸つけの仕方

先生の解説を見る

答えのポイントは次のとおりだよ。自分の書いた答えの中に、次のポイントが書かれていたら、となりに線を引いて印をつけておこう。すべて書けていたら○だよ。

大切

「自分の背がこれ以上大きくなつたら」を書けた。

「こまると思った」を書けた。

文のおわりを「〜から。」にできた。